

12. 山形県尾花沢市

1. 地域概要

対象地域	山形県尾花沢市（銀山温泉エリア）			
申請主体	山形県尾花沢市			
計画名	「GINZAN is an Art Museum」 持続可能な観光地づくり計画			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	441	329	306
	- 国内	418	317	286
	- 訪日外国人旅行者	23	12	20
地域の特徴・ 観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> 尾花沢市東部の山あいにある国内有数の観光地 木造多層建築の旅館等（大正中期～昭和初期に形成）が軒を連ねる、ノスタルジックな街並み 「銀山温泉家並保存条例」に基づいた官民連携での景観づくりに取り組んでいる。 特に冬期間は、ノスタルジックな街並みに雪が映え、国内外からの観光客でにぎわっている。 			
協議体制	協議の場			
	尾花沢市持続可能な観光地づくり協議会			
協議体制	参加者			
	行政機関	住民関係者		
協議体制	<ul style="list-style-type: none"> 尾花沢市（商工観光課） 山形県 東北運輸局 	<ul style="list-style-type: none"> 銀山地区住民代表 		
	事業者			
協議体制	<ul style="list-style-type: none"> 銀山温泉組合 銀山温泉女将会 (株)銀山荘 (株)明友 (有)はながさバス 	<ul style="list-style-type: none"> (株)尾花沢タクシー 尾花沢観光産業連絡協議会 (一社)市観光物産協会 (株)市ふるさと振興公社 		

エリアマップ




大正ろまん館
銀山温泉の夕景
(パーク&ライド (※以下P&Rとする) 拠点)



パーク&ライド拠点
トイレ

<バッファエリア>
車の混雑・渋滞が
発生しているエリア

<コアエリア (温泉街)>
人の混雑が発生しているエリア

トイレ

出典：国土地理院の地図データを加工して作成

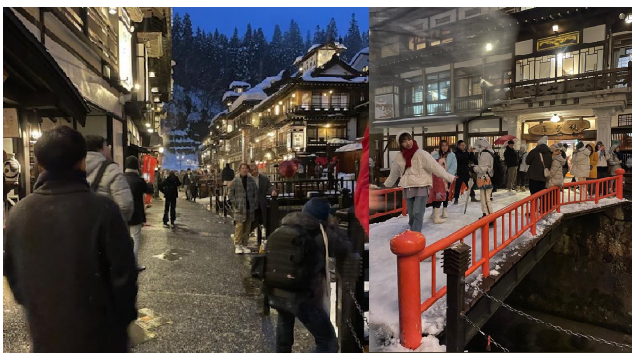



白銀の滝

2. 課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 混雑による 銀山温泉街の魅力低下	<ul style="list-style-type: none"> 大型連休や冬期には温泉街がすれ違いが困難なほど、著しく混雑している 過度な混雑で景観が阻害されることで特に宿泊客の満足度低下が懸念されている 実際、令和6年度の調査では、約40%の来訪者が混雑によって「銀山温泉らしさが失われている」と感じていることが明らかとなった 	地域資源・観光客
2. 豪雪地帯における 交通支障の発生	<ul style="list-style-type: none"> 温泉街へのアクセス道路は幅員が狭く、車と歩行者の接触事故リスクや緊急車両の通行支障が生じている ノーマルタイヤで来訪した車が立ち往生する事象が頻繁に発生しているほか、違法駐車が除排雪作業にも支障を与えるなど、豪雪地帯ならではの交通障害が多数発生している 	地域住民・観光客
3. マナー・受入整備不足 による環境悪化	<ul style="list-style-type: none"> 文化の違いから生じる不適切なトイレ利用やゴミのポイ捨てが発生しているため、景観や自然環境への悪影響が懸念されている トイレが少なく、かつユニバーサルデザインにも対応していないため、多様な観光客の受入環境が十分に整備されていない 	地域資源・地域住民・観光客

① 混雑による銀山温泉街の魅力低下



冬期間の温泉街

特に写真スポットは混雑し、順番待ちの列が発生している

② 豪雪地帯における交通支障の発生



温泉街に通じる県道

道路脇に雪が堆積するため、冬期間はさらに幅員が狭まり車両のすれ違いが困難である

③ マナー・受入整備不足による環境悪化



パークアンドライド拠点の駐車場内と温泉街内のトイレ

衛生的なトイレ環境の維持が困難である

3. 背景・要因

主な背景・要因

1. **受入許容が限られる山間の狭小エリア**
 - ・ 银山温泉街は山あいの突き当たり位置する狭小エリアで、宿泊施設の受入許容も約160室と非常に限られている
 - ・ さらに、温泉街へ至る道路も幅員が狭く、特に冬季の除雪時には車両のすれ違いが困難となる

2. **特定時間に集中する日帰り観光客／訪日外国人旅行者の急増**
 - ・ ガス灯が点灯する夕方以降の時間帯に、ガス灯に照らされる歴史ある温泉街のフォトジェニックな光景を求め日帰り観光客が集中する
 - ・ 近年、外国人旅行者も急増しており、令和4年の0.3万人（1.1%）から令和5年には2.0万人（6.2%）へと大幅に増加した
 - ・ 日本や温泉特有のルール・マナーへの理解不足に加え、観光需要の多様化への受入体制が十分に整っていないことも問題となっている

1. 狭小エリア

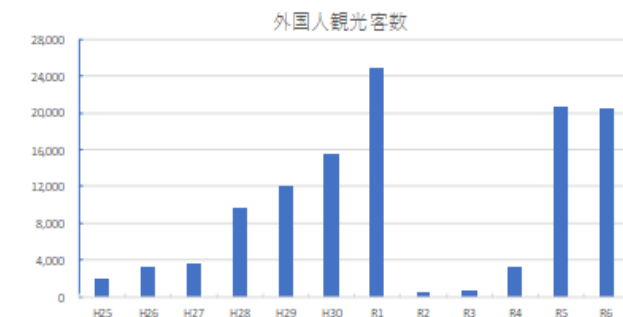


出典：国土地理院の地図データを加工して作成

2-1. 特定時間に集中する日帰り観光客



2-2. 訪日外国人旅行者の急増



4. 対策の概要

目指す姿	<p>非日常をゆったり感じる、銀山温泉 ~GINZAN is an Art Museum~ 100年前の面影を残す銀山温泉を美術館に見立て、観光付加価値の創出と歴史的景観の保全を追求しつつ、今後100年先まで守り続ける。観光業に携わる方々の生業を守り、ひいては「市民が住み続けられるまち」の実現につなげていく。</p>
KGI	銀山温泉における旅行満足度（大変満足）
	目標値：70.0%（令和9年度） 実績値：65.6%（令和6年度）
<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度に立ち上げた「持続可能な観光地づくり協議会」での議論を繰り返しながら、銀山温泉における滞在価値の向上をめざす。 令和6年度は冬期間に「マイカー規制と来訪者の総量調整」の実証実験を実施したところ、来訪者の行動変容が見られるなど一定の成果があった。 「マイカー規制と来訪者の総量調整」については、今後の実装を見据えてさらに深掘りする必要がある。 	

※③④はエリア全体に係る事業



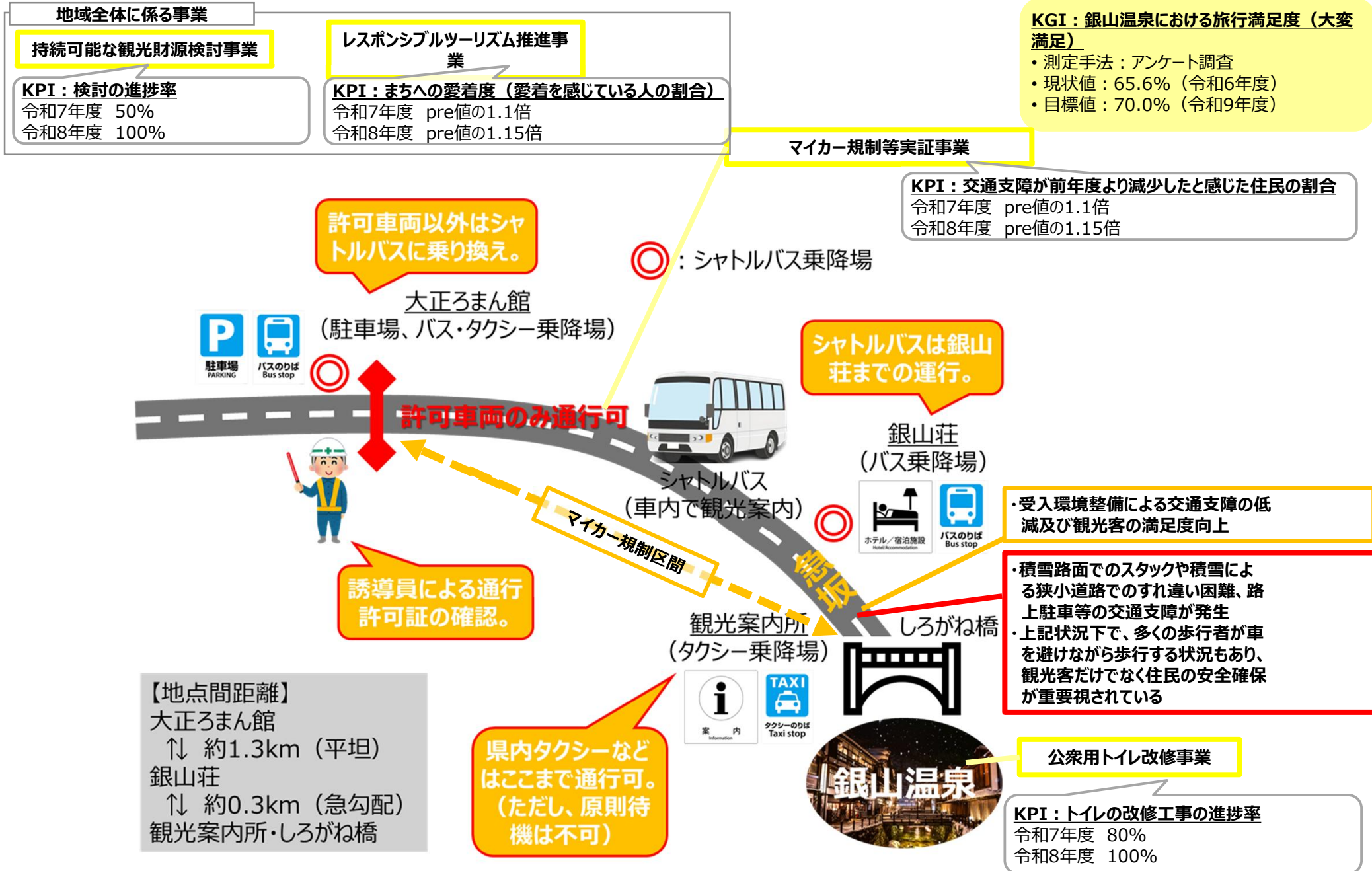
出典：国土地理院の地図データを加工して作成

■ 補助事業の実施概要

受入環境の整備・増強	
①マイカー規制等実証事業	<ul style="list-style-type: none"> 特に大型連休や冬期間は、温泉街においてすれ違いが困難なほどの混雑や車と歩行者の接触事故、緊急車両の通行支障が生じている 交通支障を低減するため、マイカー規制（パークアンドライド方式）の実証実験を実施。特に夕方以降は混雑が予想されるため、来訪者の流入調整（平準化・分散化）の実証実験を併せて行う
②公衆用トイレ改修事業	<ul style="list-style-type: none"> 文化の違いから生じる不適切なトイレ利用やゴミのポイ捨てが発生し、景観や自然環境への悪影響が生じている 多様な観光客の受入体制を整える一つの取組として、まずは唯一の公衆用トイレを改修する（スロープの設置、多機能トイレの増設等）

地域住民と協働した観光振興	
③レスポンスブルツーリズム推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 過度な混雑で景観が阻害されることで特に宿泊客の満足度低下が懸念され、令和6年度の調査では、約40%の来訪者が混雑によって「銀山温泉らしさが失われている」と感じていることが明らかとなった 銀山温泉の魅力を取り戻すため、尾花沢らしいレスポンスブルツーリズムのあり方検討（WS等）を通じて、シビックプライドを醸成する
需要の適切な管理	
④持続可能な観光財源検討事業	<ul style="list-style-type: none"> 過度な混雑で景観が阻害されることや冬期間の安全性への不安から、銀山温泉における滞在価値の低下が懸念される 滞在価値の向上や付加価値の追求に資する取組継続には多額の費用を要することを踏まえ、地域の特性や先進事例等を踏まえつつ、尾花沢（銀山温泉）らしい入域料等のあり方を検討する

【本地域における取組マップ】



【地点間距離】
大正ろまん館
↑↓ 約1.3km（平坦）
银山荘
↑↓ 約0.3km（急勾配）
観光案内所・しらがね橋

県内タクシーなどはここまで通行可。
（ただし、原則待機は不可）

5-①. 主な取組（詳細）

受入環境の整備・増強

補助事業①	マイカー規制等実証事業		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と来訪者の安全確保 温泉街の混雑緩和 		
実施主体	尾花沢市	実施期間	令和7年11月～令和8年2月 ※実証事業期間後（～3月上旬）も独自で継続予定

【背景・課題】

- ・ 银山温泉は国内外から多くの観光客が訪れる人気観光地であり、特定の時間帯（冬期、ガス灯点灯時）は温泉街が著しく混雑し、すれ違うことも困難な状況
- ・ 観光客の満足度低下のみならず、観光客および地域住民の安全確保にも大きな懸念が生じており、持続可能な方法での改善が求められる

【事業内容】 ※下線箇所が令和6年度から更新した点

① 交通支障の減少に資する取組 ⇒有効

- ・ マイカー規制（パークアンドライド方式）の実施（11/1～3、11/22～24、12/20～1/31）
- ・ ※一部事業実施期間以降も银山温泉組合主導で実施
- ・ 将来的な通年実施の可能性を踏まえた、データ収集の実施（11月に連続した1週間のデータ収集）
- ・ 誘導員の配置時間：9時～21時、シャトルバスの運行時間：9～18時（復路は19時半が最終便）

② 混雑緩和、来訪者の分散化に資する取組 ⇒有効

- ・ 予約制シャトルバスではなく、運行本数を終日調整することにより総量調整を実施 ⇒有効
- ・ 银山温泉シャトルバス時間帯別運賃の試験的導入 ⇒ 行動変容効果小（運賃の多寡は行動変容の動機付けにつながりづらい）
- ・ 時間指定・座席定員料金制度（プライオリティ・パス）の試験的導入 ⇒非常に有効（待たずに乗車できることの価値容認）
- ・ 大型バス駐車場予約制の試験的導入（追加料金2,000円、大正ろまん館の駐車場を最大2時間利用可能な予約制度）⇒有効
- ・ 混雑予報カレンダーの公表 ⇒行動変容効果小（ただし、継続して発信することが重要）

③ 来訪者満足度向上に資する取組 ⇒有効（ただし、改善が必要）

- ・ シャトルバス内での観光案内に関する動画放映

【推進ポイント】

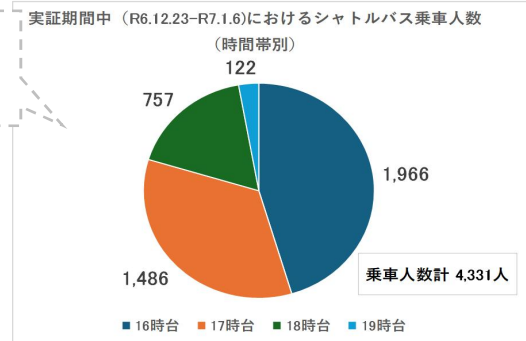
① 交通支障の減少に資する取組

- ・ マイカー規制（パークアンドライド方式）の実施に加え、将来的な通年実施を見据えたデータ収集を行うことで、交通混雑の緩和と安全な交通環境の確保に向けて深掘りする

② 混雑緩和、来訪者の分散化に資する取組

- ・ シャトルバスの運行本数や運賃の時間帯別変動、優先乗車制度、大型バス駐車場予約制など多様な仕組みを試行し、来訪者の分散と混雑ピークの平準化をめざす

＜シャトルバス運行時間の検討＞
夕刻以降の来訪者のうち、約80%が17時台までに来訪している。



＜時間帯別運賃の検討＞
令和6年度実証期間中のデータによると、来訪は14～18時に集中し、11～14時は他の時間帯に比較して少ない。



5-①. 成果及び今後に向けて

補助事業①		マイカー規制等実証事業	
令和7年度事業の目標 (KPI)			
指標名	交通支障が前年より減少したと感じた住民の割合		
令和7年度に掲げた目標値		事業の成果/目標の検証結果	(令和8年1月時点)
<ul style="list-style-type: none"> 年度内目標値：pre値の1.1倍 	▶	<ul style="list-style-type: none"> 85.7% ※14.3%は「昨年度と同程度であった」と回答 	
成果の詳細			
<p>①マイカー規制（パークアンドライド方式）について、地域住民や域内事業者の協力と理解により試験的な手法にも挑戦でき、かつ事故等なく実施できた</p> <p>②混雑緩和、来訪者の分散化に資する取組として実施したシャトルバスの時間帯別運賃制について、行動変容効果は小さい（運賃の多寡は行動変容の動機付けにつながりづらい）ものの、銀山温泉の人氣が高いこと、運賃の変動制やプライオリティ・パスの取組は許容されることを確認できた</p> <p>③来訪者満足度向上に資する取組として、シャトルバス内のモニターで放映するマナー啓発を含めた動画を制作。視聴した方からは、好意的な感想が寄せられた</p>			
令和7年度事業を踏まえた継続課題		令和8年度以降の方針	
<p>1 交通支障の減少に資する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 運行許可証のない車両による銀山温泉街への侵入や法令違反が疑われるような事象も一部見られたため、関係機関とのより一層の連携が求められる <p>2 混雑緩和、来訪者の分散化に資する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 混雑予報カレンダーについては、大きな行動変容には寄与しなかったが、継続して発信することが求められる 地域視点（地域住民の心理的キャパシティ）と折り合いをつけた受入許容を深掘りする必要がある <p>3 来訪者満足度向上に資する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果から、滞在時間が長いほど食や地域の人々との触れ合う機会が生まれ、それが満足度上昇につながるがあったため、動画放映以外の切り口についても検討が求められる 	▶	<p>1 交通支障の減少に資する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 来訪者の動向調査（周遊性、回遊性など）、交通量等調査を継続実施 2カ年の実施結果を踏まえ、マイカー規制の対象者や期間の拡大も視野に、銀山温泉にとって真に必要な取組手法を再検討 <p>2 混雑緩和、来訪者の分散化に資する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 予約制のあり方検討や、タビマエ情報の継続発信等による時間的分散の推進 銀山温泉以外の場所における魅力の磨き上げや受入体制づくりなど、面的分散につながる取組の検討 <p>3 来訪者満足度向上に資する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 滞在時間の延長やリピート率向上につながる取組の検討、それらに必要となる関係者との連携深化 	

補助事業①

マイカー規制等実証事業

補足内容

成果詳細 (交通支障の減少、混雑緩和、来訪者の分散化に資する取組)

＜交通支障事案減少＞
大正ろまん館～温泉街

(R7年度実証前) ※イメージ写真



(R7年度実証中) ↓



＜シャトルバス乗車環境改善＞

(R6年度実証中)

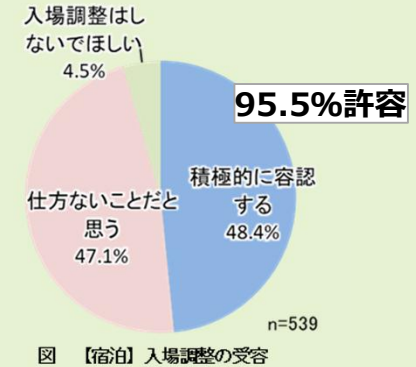


(R7年度実証中) ↓



＜観光管理に対する理解＞

(R7年度実証中調査)



(R7年度実証中調査)

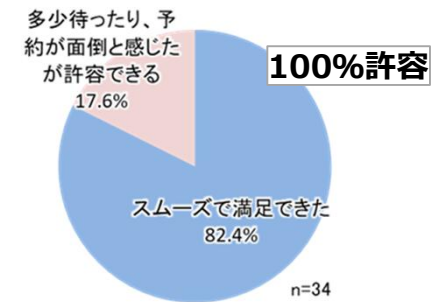


図 【日帰り】 パークアンドライドの満足度 (冬季)

補助事業①

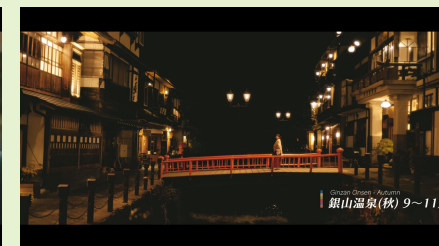
マイカー規制等実証事業

補足内容

成果詳細 (来訪者満足度向上に資する取組)

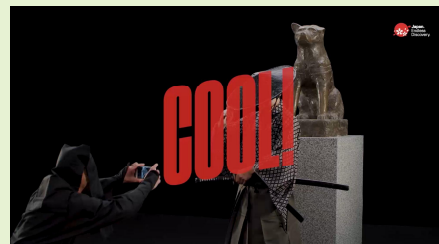
「COLORS OF OBANAZAWA」と題した本市紹介動画 (約5分)

※動画のテーマは「色」。四季折々の尾花沢の景色や特産を白や青などの色で表現し、山形県の特産である紅花染めが染まっていく様子と関連付けて、ものがたり風に仕上げた。銀山温泉以外の魅力も伝えることで、周遊性やマネタイズポイントの創出に挑戦。地域の方々の思いや温かさがにじみ出ているところがポイント!



マナー啓発動画 (観光庁制作)

※本市紹介動画のあとに写真撮影やトイレ使用などに関するマナー動画を放映。両動画をシャトルバス車内で繰り返し放映することで、来訪者が視聴する機会を創出。



5-②. 主な取組（詳細）

地域住民と協働した観光振興

補助事業③	地域全体の観光地域づくりに関わる事業 レスポンシブルツーリズム推進事業		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ レスポンシブルツーリズムの推進 ・ レスポンシブルツーリズムの検討を通じた、シビックプライドの醸成 		
実施主体	尾花沢市	実施期間	令和7年7月～令和8年2月

【背景・課題】

- ・ 银山温泉には国内外問わず多くの方が訪れており、特に冬季期間やガス灯がともる夕方にはすれ違いが困難になるほどで、混雑による満足度低下や観光客と住民の安全性への懸念、文化の違いによるマナー違反といった問題が発生している
- ・ 令和6年度には、観光客向けのマナー啓発に取り組んだところ、観光客への単発的なアプローチでは効果が限定的であった。一方、「银山温泉を守る」意識を観光客にも持ってもらうことは、今後の観光地運営には不可欠である
- ・ また、持続可能な観光地域づくりの形成に向けては、観光客へのアプローチと並行して地域側の意識醸成が重要である

【事業内容】

- ・ 尾花沢らしいレスポンシブルツーリズムのあり方を検討する（银山温泉での過ごし方のルールづくり）
- ・ 来訪者にして欲しい観光行動の検討（WS等）を通じて、同時にシビックプライドの醸成を目指し、ルール案を作成する
- ・ そのため、以下の対応ステップで推進した
 - 9月～2月：地域住民等参加型ワークショップ、意見交換会
 - 10月～11月：地域事業者ヒアリング（本市観光地域づくりへの思いを聴取）
 - 10月～11月：市民及び観光客向けアンケート調査（市民の思い、観光客ニーズを把握）
 - 2月：ルール案作成

【推進ポイント】

- ・ 地域住民が主体的に地域の価値を見出し、迎える側としての意識を高められるよう工夫する
- ・ 地域住民と一体となり進め、地域の魅力を守り発展させる視点を持つ



意見交換会/ワークショップの様子

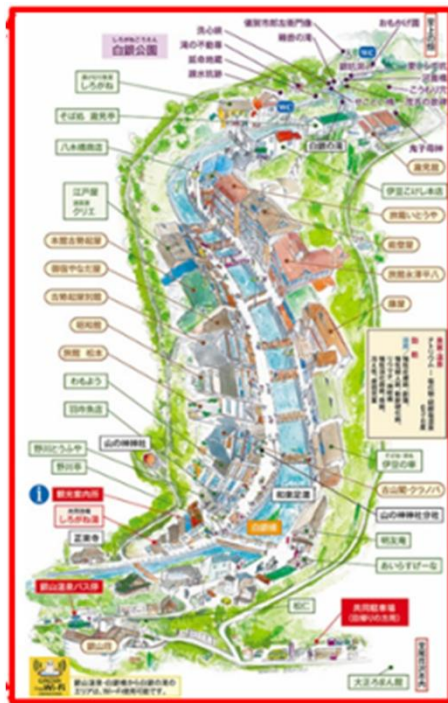
5-②. 成果及び今後に向けて

補助事業③		地域全体の観光地域づくりに関わる事業 レスポンシブルツーリズム推進事業			
令和7年度事業の目標 (KPI)					
指標名	まちへの愛着度 (愛着を感じている人の割合)				
令和7年度に掲げた目標値	事業の成果/目標の検証結果 (令和8年1月時点)				
<ul style="list-style-type: none"> pre値の1.1倍 	<ul style="list-style-type: none"> (pre値2.99) 3.25 ※尾花沢市の改善や発展に貢献したい人の割合はpre値の1.16倍 (pre値2.84、post値3.31) 				
成果の詳細					
<ul style="list-style-type: none"> 本年度は銀山温泉・尾花沢市のステークホルダー (市民・観光客・観光事業者) の意見を丁寧に収集し、尾花沢市の守り続けたいもの、現在の課題感を各目線から把握した レスポンシブルツーリズムという馴染みの薄い言葉を、「銀山温泉での過ごし方のルールづくり」という言葉に再定義。最大のもてなしを実現することを目的に、雪国での注意などを盛り込んだルール (案) を作成した 					
	事前準備	整理	ワークショップ等の実施	ルール案作成	今後の活用検討
概要	<ul style="list-style-type: none"> 銀山温泉が抱える課題のすり合わせ・求める観光客像の検討 各種アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> すり合わせた銀山温泉の課題をもとに、事業者の考える銀山温泉へ想いや現状を把握し、整理 	<ul style="list-style-type: none"> 大切に思うものや課題感を通じて、『どのようなことを誰に伝えたいのか』を考えるワークショップ実施 銀山温泉での過ごし方に関するコンセプト・ルール初期案を策定するにあたり、「尾花沢“らしさ”」を議論・検討 銀山温泉に関わる人同士が意見を交わす場を創出でき、銀山温泉に対するそれぞれの思いを共有 	<ul style="list-style-type: none"> ライターによるルール案の作成 初期案に対して銀山温泉事業者から意見収集 届けたい相手を【メイン】銀山温泉を訪れる観光客、【サブ】銀山温泉以外に住む近隣住民に設定 	<ul style="list-style-type: none"> 届ける方の優先度やメインとサブの定義などを引き続き整理 ルール案の磨き上げ、ターゲットに応じた発信媒体等の研究
令和7年度事業を踏まえた継続課題			令和8年度以降の方針		
ルール案の継続的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ルールづくりや発信をゴールとせず、観光客の行動変容や地域住民の意識醸成につなげる必要がある 			ルール案の継続的な検討及び完成・発信 <ul style="list-style-type: none"> 本年度作成したルール案をベースに、今後の銀山温泉や尾花沢市がどうあるべきか、どのような取組が必要か等を引き続き検討・協議し、発信内容を深化させる 発信の目的やターゲットに応じた発信手法を深掘りする 		

4. 対策の概要

- 観光需要の回復により、問題事象が顕在化。
- 市、組合はそれぞれ対処療法的に対応してきたが、行政、組合、旅行に関わる事業者などの協働により解決すべきフェーズであると確認。
- 新たに協議会を立ち上げ、地域住民と観光客双方にとっての「何度でも訪れたい魅力的、かつ持続可能な観光地づくり」に向けて協議をスタート。
- 協議会内に分科会（交通チーム/観光チーム）を設置し、事業内容を検討。

<コアエリア（温泉街）>



尾花沢市作成

調査・分析

取組み

①尾花沢市持続可能な観光計画の策定

内容

- 尾花沢市における持続可能な観光地づくりの今後3年程度のビジョンを策定
- 「需要の平準化による快適な来訪環境の確保（総量調整）」の検討等、市として今後取り組む各種施策の拠り所とする
- ノスタルジックな景観の保全、観光客の満足度向上への効果を明らかにするとともに、持続可能な実施手法及びその財源について、実現可能性の高い取組の構築を目指す

需要の適切な管理

取組み

②「パークアンドライド方式」と「来訪者の総量調整」の実証

内容

- 受入許容量を超える日帰り観光客が来訪している
- 観光客がマイカーで温泉街に侵入することで交通支障も発生（特に冬期間）
- それに対し、「P&R方式の実証」を実施し、マイカー規制の効果を検証する
- 併せて、「シャトルバス内で観光案内」、駐車場またはシャトルバスの利用上限を設けることによる「流入客数調整の実証」を実施する
- 車両数の減少に伴う交通支障の減少や、シャトルバス内の観光案内による観光客のワクワク感醸成、流入客数の調整による温泉街の混雑緩和を目指す
- 本事業の実証結果を通して、将来的な総量調整に向けた上限数の精査を行う

マナー啓発

取組み

③多言語による情報提供、マナー啓発

内容

- 日本のマナーやルールについて、外国人観光客へ十分な周知ができておらず、トイレマナーやごみのポイ捨てなどが問題となっている
- それに対し、银山地区のトイレ（大正ろまん館、白銀の滝付近）にデジタルサイネージを設置し、多言語による情報提供とマナー啓発を実施する
- 外国人旅行者を中心としたマナー向上、ユニバーサルツーリズムの推進を目指す

5-①. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 受入許容量を超える日帰り観光客の来訪⇒景観、環境美化の阻害
- ・ 観光客がマイカーで温泉街に侵入⇒交通支障

取組み

「パークアンドライド方式」と「来訪者の総量調整」の実証

- ・ 実施期間：令和6年12月23日～令和7年1月6日
- ・ 実施主体：尾花沢市

事業内容

①：「パークアンドライド方式」

- ・ **マイカー規制**：日帰り、かつマイカー等での来訪者は大正ろまん館に駐車し、シャトルバスに乗り換える（パークアンドライド）（午前9時～午後9時まで）

②：「来訪者の総量調整」の実証

- ・ **来訪者の総量調整**：シャトルバスに乗車できる上限を設定し、夕刻以降は予約制とする。（予約制シャトルバスは午後4時～午後8時まで）

■ 同時実施の取組

- ・ 高齢者等への配慮のため、**シャトルタクシーも運行**
（予約制シャトルバスを運行する午後4時～午後8時までの時間帯に限り）
- ・ シャトルバス（タクシー）**車内での観光案内**を実施
（市内の周遊観光につながる仕掛け。银山温泉目当ての観光客の滞在時間延長と市街地への経済波及効果をねらう。）



【背景・目的】

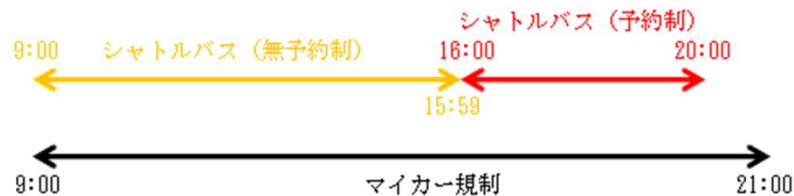
- ・ 银山温泉について、特に冬季期間、受入許容量を超える日帰り観光客の来訪や、観光客のマイカー侵入による交通支障が問題となっている
- ・ 「P&R方式の実証」を実施し、マイカー規制の効果を検証する。併せて、「シャトルバス内で観光案内」、駐車場またはシャトルバスの利用上限を設けることによる「流入客数調整の実証」を実施する

5-①. 主な取組み（詳細）

P&R時間や規制車両の定義等

- 「日帰り観光客は夕方以降に集中している」という仮説のもと、午後4時～午後8時までのシャトルバス乗車を予約制に。
⇒来訪者の平準化を図る
- 路線バスは公共交通機関であり、地域住民の利用も想定されるためマイカー規制の対象外。（事業者への配慮）
- 県内のタクシー事業者は、協議会参画メンバーの協力により事前周知を行うことにより、混雑緩和や渋滞抑制が可能であるためマイカー規制の対象外。（事業者への配慮）
- 温泉街の飲食店等を予約している日帰り観光客は、マイカー規制の対象でシャトルバス予約は不要。（事業者への配慮）

P&Rの時間帯



マイカー規制の対象

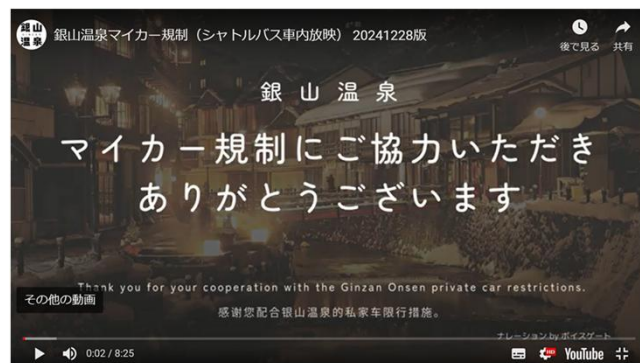
車両区分		マイカー規制	シャトルバス予約	通行許可証	
自家用車 (レンタカー含む)	銀山温泉に居住または通勤	対象外	-	要	
	宿泊客 宿泊予約あり	対象外	-	不要	
	日帰り客	飲食店等の予約あり	対象	不要	-
飲食店等の予約なし		対象	要	-	
タクシー	宿泊客 県内外問わず(宿泊予約ありの乗客が乗車)	対象外	-	不要	
	日帰り客	山形県内の事業者	対象外	-	不要
		山形県外の事業者	対象	要	-
貸切バス	日帰り客	山形県外の事業者(飲食店等の予約ありの乗客が乗車)	対象	不要	-
		宿泊客 宿泊予約あり	対象外	-	不要
	飲食店等の予約あり	対象	不要	-	
飲食店等の予約なし	対象	要	-		
路線バス		対象外	-	不要	
緊急車両(警察、消防、救急、ガスなど)		対象外	-	不要	
取引業者車両(リネン、食材、備品など)		対象外	-	要	
宅配・郵便車両		対象外	-	不要	
除雪車両		対象外	-	不要	
その他業務目的車両(打合せ、工事など)		対象外	-	要	

5-①. 主な取組み（詳細）

P&R車内での観光案内／観光カード

- ・ 銀山温泉到着前のワクワク感の創出やおすすめ土産品の案内など消費拡大の契機となることを狙い、パークアンドライドによる旅行者の負担を付加価値に変えることを目的とする。
- ・ 加えて、銀山温泉だけではない本市の魅力を発信することにより市内の周遊観光を促進し、銀山温泉目当ての観光客の滞在時間延長と市街地全体への経済波及効果をねらう。（マネタイズポイントの創出）

観光案内映像イメージ ※シャトルバス車内で放映（10分弱）



観光カードイメージ ※両面印刷、夜と昼の2種類用意



観光情報リンク集
観光資訊連結集
Tourism Information Links Collection

5-①. 主な取組み（詳細）

令和6年度事業の目標

「パークアンドライド方式」と「来訪者の総量調整」の実証を通して、温泉街における観光管理の運用・体制を構築

事業の成果／目標の検証結果

- A：【運用】**大きな混乱なく実証を完了。温泉街の混雑の平準化につながるるとともに、**利用者の満足度も高い結果**となった。
- 最も混雑する時間帯は変わらないものの、**来訪が少なかった時間帯の来訪が増加**
 - **パークアンドライド利用者満足度 69.1%**
- B：【体制】**令和8年度以降の継続に向けた体制基盤が整った
実証を通して、観光管理に関する地域関係者からの支持を得られた

成果詳細

実証の運用

取り組み成果

観光客理解

交通支障事案の減少

- パークアンドライドに伴うマイカー規制により、円滑な交通と安全性が確保された
- ・ 路上駐車：減少
 - ・ 一般車両の雪道スタック：減少

観光客の来訪時間平準化

- ・ 実証前と実証中で最も混雑する時間帯は「16:00~17:00」
- ・ **実証前は来訪が少なかった時間帯の「11:00~14:00」の来訪が増加した**（来訪者数が比較的多い時間帯が分散）

観光管理に対する観光客理解

- 取組に対する観光客理解が十分に得られた
- ・ 取組内容を来訪前に知らなかった場合も、P&R拠点での誘導で理解が得られた（強行突破や言い争いなどのトラブルなし）
 - ・ **P&R利用者の約7割が「スムーズで満足できた」、3割弱が「多少まったり、予約が面倒と感じたが許容できる」と回答**

地域関係者との体制づくり

地域関係者の観光管理に対する意識の変化

- ・ 本実証を機に、地域関係者が議論する場として協議会を発足。議論の場がなかった状態からのスタートで、当初は「観光客の排除」につながるのではという懸念から、関係者間で**意見が対立**した。
- ・ 実証後は「**有益だった**」「**令和8年度も継続したい**」との声が多く上がり、令和8年度継続に向けた前向きな連携基盤が整った

ポイント① 地域関係者との密なコミュニケーション

- ・ 協議会とは別に、市担当者が**関係者を個別訪問**し事業目的を説明
- ・ 協議会では、都度目的に立ち返り、共通認識のもと合意形成を促進（排除ではなく、温泉街の魅力向上と観光客満足に資する取組）

ポイント② メディアによるポジティブな世論形成

- ・ メディアが市の取組とその目的、成果を伝え**ポジティブな世論**を形成
- ・ 取組の目的が正しく伝わるよう報道内容の文言をメディアと密に調整（例：排除色が出ないよう「総量規制」ではなく「総量調整」と徹底）

5-①. 主な取組み（詳細）

令和6年度取組みから見てきた課題

- ・ 银山温泉街にとって初の試みであったが、現場スタッフ・観光客ともに大きな混乱なく実証を完了することができた
- ・ その中で、下記3点が主な課題として挙げられた

1 温泉街混雑を直接管理できる施策の追加

- ・ パークアンドライドの予約制は往路のみ（かつ16:00以降）であるため、一度温泉街に入った後に長く滞在する観光客が多い場合混雑につながる事が分かった
- ・ 直接的な混雑管理の手法が必要

2 パークアンドライド発着地駐車場付近の渋滞対策

- ・ 駐車場には観光客の一般車両や大型バスが集中し、駐車場の許容量を超過した場面も発生した
- ・ 駐車場外の道路で一時渋滞が発生する事態となり、緩和策が必要

3 持続可能な財源確保の仕組み検討

- ・ パークアンドライドや総量調整の継続、観光客の受入体制強化、滞在価値の向上などに取り組んでいくためには、かなりのコストを要する
- ・ 個別具体の取組実行と並行して、財源確保に向けた仕組みの検討が必要

令和7年以降に取り組むべきと考えること

- ・ パークアンドライド以外の対策も検討に入れながら、温泉街の混雑緩和や観光客の安全確保、そして対策を持続可能にするための財源確保の方法を模索していく

1 温泉街の「1時間当たりの許容人数」の設定

- ・ 1時間あたりの受入上限を設定し、混雑管理を実施
- ・ 実証中最も混雑する時間帯の16:00~17:00には、1時間当たり約300名が滞在（※）。今後300名を基準とすることが適切か否か、引き続き検討を進める
※温泉街内のセンサーにカウントされた通過人数

2 「大型バスの駐車予約制」導入の検討

- ・ 駐車場の許容量超過を防ぐため、大型バスの来訪時間帯分散を目的とした駐車予約制の導入を検討（一般車両に比べて輸送量が多いため、①の課題にも対応できる可能性あり）

3 「入域料」等のあり方検討

- ・ 持続可能な観光地域形成に必要な財源確保のため、地域の実情や特性（※）を踏まえて、様々な手法について検討する
※温泉街の道路は市道であること、温泉街は山あいの突き当たりに位置していることなど

現状について

- ・ 令和7年度は、地域一体型として事業を実施。